



豊高だより

平成29年7月20日発行 通算44号

埼玉県立豊岡高等学校

(題字は本校 櫻田 晴子 教諭)

巻頭言

校長 鈴木雅士

一 はじめに

「こまめに水分補給を」の声掛けが欠かせません。関東は猛暑続きですが、九州北部では、集中的な大雨による災害が起こっています。昨年は、ここ入間市でも、河川の氾濫で大きな被害にありました。自然災害により生活が一変してしまうような不測の事態に限らず、いつも危険と隣り合わせにすることを忘れないようにしたいと思います。本校では、この一学期を無事に終え、長い夏休みに入るころです。

二 一学期を振り返って

四月に三二七名の新入生を迎え、九五六名で元気にスタートしました。学校行事では、四月に遠足を行い、新学期のクラスで、大いに交流を深めました。そして六月の体育祭で、全員が汗を流し、団結し、豊岡高校生であることの実感と勢いを身につけ



たものになりました。

今年の体育祭は、種目を精選し競技中心に組み立てたものでした。どのクラスも競技に集中し、応援にも熱が入っ



ていて、大変な盛り上がりでした。すべてのクラスに優勝の可能性があるので、総合優勝したクラスは、かなり綿密な作戦を立てていたと聞きました。できうる範囲で、できることを最大限に発揮することが功を奏したのでしょうか。また、競技を進行する係の人たちの行動力には感心するばかりで、大成功の陰には、必ず支えてくれていた人たちがいることを見逃さないようにしたいものです。午前中の炎天下、午後の土埃が吹き付ける中にあつても、最後まで全員が駆け抜けた見事な体育祭でした。見学にいらした保護者の方の数も、声援の度合いからも、昨年より大分多かったですように思います。体育祭を終えて、連休明けの土曜日には公開授業を行いました。その日の午後には年次別保護者会なのですが、出席者数が増加し

てきていることにより、今年は、広い外部会場をお借りし、近くの産業文化センターで開催しました。どの年次もテーマに沿った話を熱心に聞いていただきました。参加されました保護者の皆様方、ご協力いただきましたPTA後援会役員の方々に、厚く御礼申し上げます。

校内での学習活動においては、本年度も毎日の朝テストが始まります。授業三ヶ条の行動目標を意識し、質の高い授業が行われるのが本校の特徴です。いま基礎学力の定着を大切にすることと合わせ、大学進学をはじめ、様々な進路に求められている能力や資質を高めるための取組が始まっています。今学期特筆することは、英語の外部検定試験の第一回出願が百三十人と、一気に倍増しました。発話を含む英語4技能の能力を測る検定試験結果が、いま大学等の入学者選抜などでも使われており、本校でも受検を推奨していることもあり、すでに中学校の授業を見てもわかるように、発話に重きを置く授業に変わってきていることの流れの表れであるともいえるでしょう。やはり大事な検定試験ですので、合格のための対策を行うことは言うまでもありません。

また、部活動においては、嬉しい



ことに、アーチェリー部の須田くんが、埼玉県大会を優勝して栃木県で開催の関東大会に出場しました。バトン部も八月の全国大会に出場します。どの部においても、新入部員を迎えて大変活発に活動しており、部活動での頑張りを大事にする本校では、益々の活躍が期待されると思います。

三 おわりの

長期休業は日課が変わりますので、皆さんそれぞれが部活動や学習に集中して取り組みます。若者においては、鍛えの夏と言われる所でしょうが、余暇としての楽しみも大いに果たし、普段ではできない思い出を作りたいと思いません。併せて、大行事である九月の文化祭準備には、備えあれば憂いなしで臨みましょう。



各年次より

『勉強時間を確保する』は

一年次主任 山田龍彦

「君たちはデート中もスマホばかり見るつもり？」期末考査前の年次集会で私はこう問いかけました。

一年次生は、一学期にR・C・AP・スタディサポート・進研模試と3つのテストを受け、職業適性・学力(基礎・応用)・学習習慣のチェックを行っています。分析では、勉強時間が不足し、基礎学力が不十分の生徒の割合が非常に高いことが分かっています。

勉強時間を確保するには、まずスマホの時間を減らすことです。目標を達成する(進路実現)ための優先順位を考えれば当然です。何かを犠牲にしなければいけません。私自身も英語が鈍ってきたので、早朝勉強をするしかないと、数年前に夜更かしをやめました。

基礎学力獲得の問題ですが、英語の「やさしくたくさん」が、全科目に当てはまる気がします。易しいレベルの問題を大量にこなす方法です。夏の課題の英語問題集はこの趣旨で選びました。

千葉雅也は『勉強の哲学』

(文藝春秋)で「教師は、まずは『このくらいでいい』という勉強の有限化をしてくれる存在である」(p.182)と書いています。教員は、生徒からの質問は大歓迎です。千葉さんは「深くは勉強しないというのは、周りに合わせて動く生き方」(p.12)であり「深く」勉強すると、状況にうまく「乗れる」、ノリのいい生き方ができなくなることも書いています。

これに通じることを荒木経惟が言っています。「時の流れや雰囲気に応じる時流でなく、自分の器や正直な気持ちで動く自流で生きる」。今は有名な写真家ですが、この言葉通り生きてきた結果、「状況」が変わったわけです。(四十年前、将来シヤネル銀座で個展を開くと想像した人はいないでしょう)。

「学習・部活・行事全てに全力で取り組む」が年次目標です。ご家庭のご理解とご協力をお願い申し上げます。

『高校生活、あと半分』

二年次主任 井口正則

一学期の皆勤者(欠席・遅刻・早退すべてゼロ)は207名でした。去年の一学期は255名でしたから、二年

になつて遅刻が増えるなど、生活に乱れが出てきている生徒がいるようです。学習面では一年次から継続して意欲的に取り組んでいる生徒と、そうでない生徒が固定化するとともに、その差が広がっています。ちなみに成績優良者(評定平均8.0以上)は22名、不良者(欠点保有者)は19名でした。

この一学期には、三年次の科目選択がありました。提出までの様子を見てみると、すでに志望校や学部、学科まで決まっています。迷いなく選択している生徒がいる一方で、進路にまだ何の具体的なイメージが持てないという者もいるようです。また選択科目が決まったことで、ひと区切りと感じている者もいるかもしれません。しかし、この区切りは次のステップのための「ひと区切り」であつて、「ひと休み」ではありません。今回の科目の選択を進路実現につなげるために、次に何をすべきかを考え、実行しなくてはなりません。

「高校生活、あと半分」と聞くと、ピンと来ない生徒が多いかもしれませんが、それが現実です。更に、夏休み明けの文化祭、そして修学旅行が終われば残りは一年余りです。進路決定までに必要な

準備期間をふまえると、この夏休みは進路について詳しく調べたり、考えたり、決定したりする最後の機会となります。「オープンキャンパス」を活用するなどして具体的な目標をしっかりと定め、一日も早く進路実現のための準備をスタートさせなければなりません。

四大希望者にとって夏休みは「休み」ではありません。模試の結果などから学力の不足や苦手の分野は分かっているはずで、この休みの間に挽回しておくことが、進路実現につながります。どの科目や分野を、どの範囲までやっておくかという計画をしっかりと立て、確実に実行を。

『5HKOJOC』

三年次主任 橋本克洋

お子さんの就きたい職業は決まっていますか？そして、その職業に関してお子さんはどれだけのことを知っていますか？

卒業後3年未満の離職率は、新規中学校卒業就職者が7割、新規高校卒業・新規短大等卒業就職者が5割、新規大学卒業就職者が3割です。「労働条件」が離職理由の1位です。この割合は30年前からほとんど変わっていません。

そして、卒業後1年未満の離職率は、新規中学校卒業就職者が4割、新規高校卒業・新規短大等卒業就職者が2割、新規大学卒業就職者が1割です。「仕事内容が合わない」が離職理由の1位になっています。1年未満で離職する人は就職前の理想と就職後の現実ギャップを感じているのだと考えられます。

職業体験の無い生徒が思い描ける仕事内容には限界があります。が、今一度職業について考えてみませんか。

たとえば、保育士志望の生徒に志望理由を聞くと「子供が好きだから」という答えが返ってきます。しかし、「子供が好き」というだけで勤まる職業なのでしょうか？

九月の中旬から就職試験が始まり、十月には推薦入試が始まります。進路決定に関して重要な時期を迎えます。面接等で、志望動機を問われる機会が増えると思います。そのときのためにも、職業について考え、理解を深めることが大切になるのではないのでしょうか。

生徒指導部より

「規範意識の向上」を目指して

生徒指導主任 白木恭彦

日頃より本校の教育活動に御

理解御協力いただき、感謝申し上げます。

今年度もおかげさまで、これまで大きな問題やトラブルも発生することなく、生徒指導部の目標の一つである「全校生徒が安全かつ安心して学校生活を送ることができる学校づくり」が概ね達成できているものと思われれます。

さて、私自身の日課となつていく朝の登校指導においても多くの教職員の協力の下、その活動が定着してきていることはもちろんのこと、その成果（頭髪や服装）も目に見えて現れるようになってきております。

しかしながら、下校時など我々教職員が見ていない場面ではどうでしょうか。残念ながら、その限りではない生徒も少なくないはずで、「誰も見ていないから問題なし」といった考え方は当然間違っていることは言うまでもないことであり、結果として、本当の意味での生徒指導は定着していないということに繋がります。

わずかではあっても、生徒それぞれの気持ちの中に規範意識が薄れ始めると、はじめは小さな綻びであっても次第に大きな綻びへと変化していくことは容易に想像さ

れます。些細なこと（Yシャツのボタンを必要以上に空けることやスカートを極端に短くすること）にばかり目がいつているようではありませんが、生徒一人ひとりが小さなことにも気を配れるように、そして、しっかりとした規範意識を持ち行動できるようになつてこそが本当の意味での生徒指導の定着だと考えております。

生徒指導に限らず、何事においても、人が見ているところでは頑張るが、そうでないところでは手を抜くといったスタンスでは成果を得ることは難しいと思われれます。このことについては、勉強や部活動では特に感じるものが大きいのではないのでしょうか。

また、日頃から「当たり前前」のことを馬鹿にしないでちゃんとやろう」といったことをよく言っております。多くのことがしっかりとできていくように思われますが、相変わらず校外での「挨拶」については、まだまだ改善の余地が残されているように思われます。とりわけ、朝については元気のなさが際立っている気がしてなりません。二学期以降、日常生活の一部として「おはようございます」の一言が加わり、お互い気持ちよく一日の

スタートが切れるようになることを願います。

最後に、長期休業を迎えるにあたり、全校生徒が、安全に留意し生活を送ることはもとより、学習活動や部活動においても全力で取り組むと同時に、その成果についても期待したいと思います。

なお、ご家庭におかれましても、配付資料にございます「夏季休業中の生活について」を、一読いただきたくお願い申し上げます。

保健室より

『1学期を終えて』

養護教諭 竹永恵美

今井知佳子

四月からの定期健康診断は無事終了しました。治療が必要な場合はお知らせを配布しましたので夏休みを利用して早めに受診、治療しましょう。保健室来室状況は、4月10日～7月10日まで、のべ311人が来室しました。来室理由で多かったのは頭痛、気持ちが悪かったです。体調不良の原因で多かったのは睡眠不足、朝食抜き、疲れです。勉強や部活動で毎日忙しく過ごしている生徒が多く、それ以外に自分の好きな事をする

となるとなかなか睡眠時間の確保が難しいようです。睡眠時間が足りないと体も心も十分な休養をとることが出来ず、体調が悪くなったり、集中力が続かなかったりします。また、睡眠不足により朝起きられず朝食を抜くことによつてさらに体調が悪くなり、生活リズムも乱れやすくなります。

夏休み中も早寝・早起き・朝ごはんを心がけ、充実した夏休みを送りましょう。

◎熱中症について

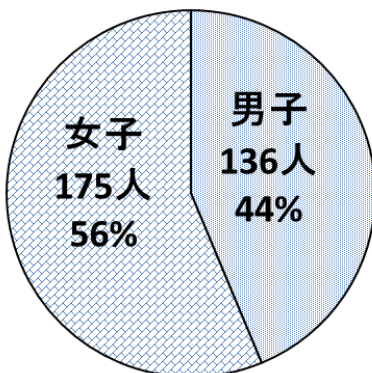
- 今年も猛暑と言われているます。熱中症にならないよう次のことに注意しましょう
- ① 規則正しい生活(食事・睡眠)
 - ② 日中こまめに水分を補給する。特に運動中など汗を多くかくときはスポーツドリンクを適宜飲む。
 - ③ 運動中や外出中は涼しいところで休養を入れる。
 - ④ 体調が悪いと感じたら無理せず涼しいところで休む。



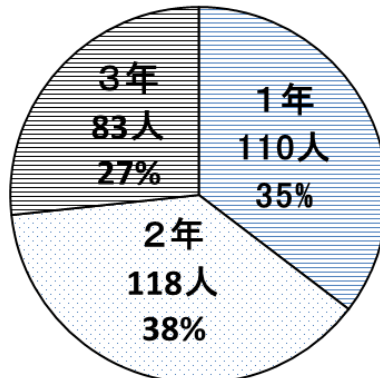
H29年度 1学期保健室来室状況 (H29.4/10~7/10)

		4月		5月		6月		7月		計(人)
		内科	外科	内科	外科	内科	外科	内科	外科	
1年	男子	3	1	10	7	11	7	2	1	42
	女子	6	1	17	7	25	11	1	0	68
2年	男子	8	0	12	4	17	10	3	5	59
	女子	7	2	12	2	17	16	3	0	59
3年	男子	1	0	10	5	8	10	1	0	35
	女子	2	0	15	13	10	7	0	1	48
計		27	4	76	38	88	61	10	7	311

男女比



学年比



来室理由

